

セクシャル・マイノリティー(性的少数者)の学生環境に関するアンケート調査(学生向け)結果

回答方法・回答数

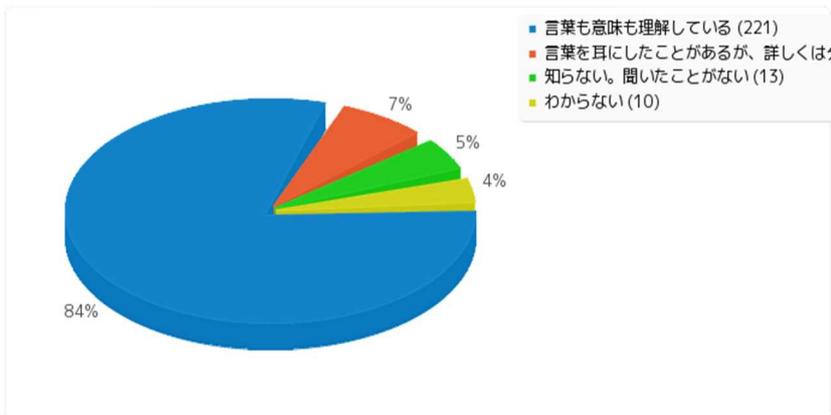
- オンラインサーベイ(実施期間 2015 年 11 月 25 日～12 月 11 日)
- 回答合計:522(265 全問回答・257 未回答有)

〈学生アンケート回答結果〉

1. LGBT という言葉を知っていますか？またその意味を知っていますか？

- ◇ 言葉も意味も理解している:221(84.03%)
- ◇ 言葉を耳にしたことがあるが、詳しくは分からない:19(7.22%)
- ◇ 知らない。聞いたことがない:13(4.94%)
- ◇ わからない:10(3.80%)

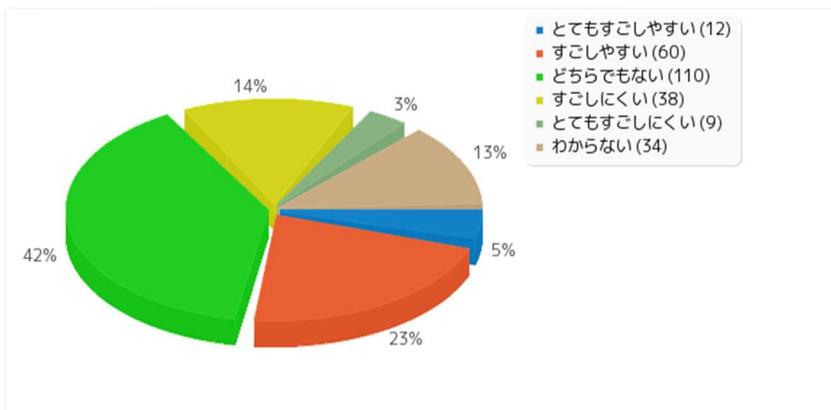
221 名(84%)の回答者が LGBT という言葉も意味も理解しており、詳しくは知らないが言葉を耳にしたことのある回答者を含めると 240 名(91.2%)となる。



2. APU は LGBT 学生に対してどのような環境だと思いますか？

- ◇ とても過ごしやすい:12(4.56%)
- ◇ 過ごしやすい:60(22.81%)
- ◇ どちらでもない:110(41.83%)
- ◇ すごしにくい:38(14.45%)
- ◇ とてもすごしにくい:9(3.42%)
- ◇ わからない:34(12.93%)

110 名(41.8%)の回答者が「どちらでもない」とっており、「とても過ごしやすい」「過ごしやすい」という肯定的な回答 72 名(27.4%)よりも、「すごしにくい」「とてもすごしにくい」という否定的な回答 47 名(17.9%)の方が少ない。



その理由は？(自由記述) 186 回答(70.72%)

「とてもすごしやすい(12名)」という回答の主な理由として、「LGBTを圧迫するような規則や制限が無いから」「自己表現は普通なことでありLGBTは問題ではないから」等が挙げられる。

「すごしやすい(60名)」という回答の主な理由として、「APUには多くの文化・人種・価値観が混在しており、LGBTも比較的受け入れられる(気にされない)から」「カミングアウトしている友だちがおり過ごしやすいようにしているから」等が挙げられる。

「どちらでもない(110名)」という回答の主な理由として、「カミングアウトしている人がいる一方で、差別的な発言も耳にするから」「特別な配慮があるわけではないが、意図的な差別があるわけではないから」等が挙げられる。

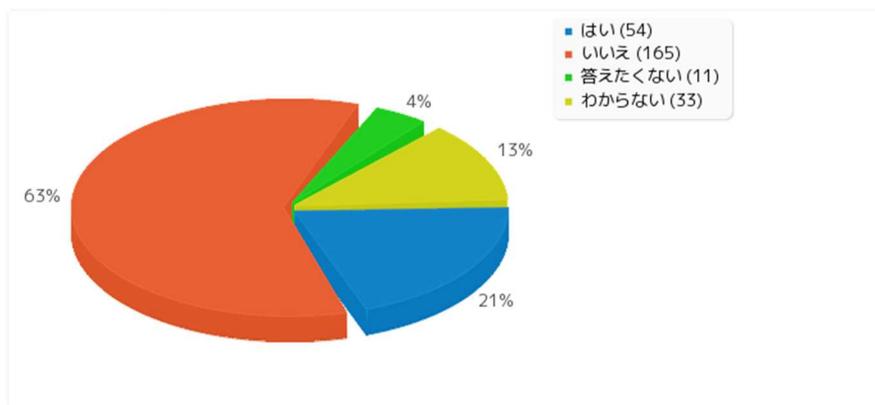
「すごしにくい(38名)」という回答の主な理由として、「トイレ・更衣室・授業等で男女の区分を迫られるから」「無関心な人が多く、偏見・差別意識をもった人もいるから」等が挙げられる。

「とてもすごしにくい(9名)」という回答の主な理由として、「男女のみの区分や異性愛が前提の環境だから」「LGBTを受け入れない宗教もあるから」等が挙げられる。

3. あなた自身はLGBTの当事者であると思いますか？

- ◇ はい: 54(20.53%)
- ◇ いいえ: 165(62.74%)
- ◇ 答えたくない: 11(4.18%)
- ◇ わからない: 33(12.55%)

54名(20.5%)の回答者が自身はLGBTの当事者であると回答しており、165名(62.7%)の回答者が自身はLGBTの当事者でないと回答している。また、「答えたくない」という回答も11名(4.2%)ほどあり、「わからない(未回答)」が33名(12.6%)であった。



(はい)の方のみ。差支えがなければ、詳細を教えてください(自由記述)。48回答(18.25%)

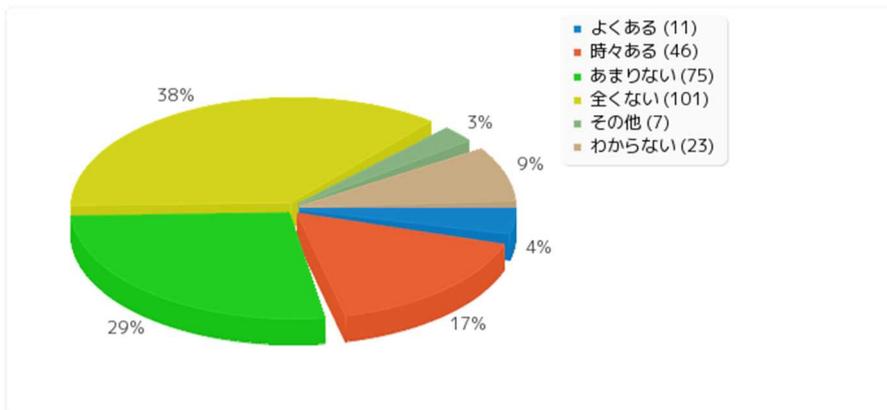
バイセクシャルと回答している回答者が14名と最も多く、次いで、ゲイセクシャル10名、レズビアン5名、トランスジェンダー(トランスセクシャル)4名の順となる。その他、アセクシャル(無性愛者:誰に対しても恋愛感情や性的感情を抱かない)、Gender Fluid(自認の性が流動的)、アロマンティック(誰に対しても恋愛感情は抱かず、友情関係のみで満たされる)、Demisexual, biromantic(特定の相手にのみ性的感情を抱き、男女ともに恋愛感情を抱く)、パンセクシャル(全性愛者:性別に関係することなくすべての人が性的対象)といった回答や、「ゲイよりのバイセクシャル」や「トランスジェンダー且つレズビアン」など、自身の性自認や性的志向について定義の間をとるものや、決めかねているもの、性的マイノリティーのカテゴリが双方に当てはまるものなど多様な回答があった。

4. APU入学後、LGBTに関する差別的発言、からかい、いじめなどを、見たり、聞いたり、受けたりしたことがありますか？

- ◇ よくある: 11(4.18%)
- ◇ 時々ある: 46(17.49%)
- ◇ あまりない: 75(28.52%)
- ◇ 全くない: 101(38.40%)
- ◇ その他: 7(2.66%)
- ◇ わからない: 23(8.75%)

「よくある」「時々ある」という否定的な回答57名(21.7%)よりも、「あまりない」「全くない」という肯定的な回答176名

(66.9%)の割合の方が大きい。「その他(7名)」の主な回答として「聞いたことはないがあるかもしれない」「子どもじみた冗談の類で深刻なものではない」「ソーシャルメディア上のみ」等が挙げられる。



(よくある、時々ある、と答えた場合のみ)それは具体的にどのような場面でありましたか？(自由記述)

回答数:44(16.73%)

主な回答として、「当事者に対する悪口や陰口(28名)」「『お前ゲイかよ』などといった会話の中での冗談やからかい(15名)」「ウィークや授業内、ソーシャルメディアといった公な場での同性愛に関するジョークや誹謗中傷(9名)」等が挙げられる(重複回答あり)。また、「人種差別のようなものだ」「そのコミュニティーの言語(母国語)で悪口を言われた」「宗教色の強い国出身の学生にとっては耐え難いものだ」といった回答も見受けられた。

5. 大学ができる LGBT 学生への支援はどのようなものがあると思いますか？(自由記述) 166 回答(63.12%)

主な回答として、「学生活動や講演会・授業等を通じた情報発信・教育(89名)」「みんなのトイレや、アンケートでの男女以外の性別欄の設置(33名)」「当事者が悩みを相談したり、意見交換をしたりする場所や機会、サポートコミュニティーの設置(31名)」「何もすべきではない、やるとしてもそっとやるべき(19名)」等が挙げられる(重複回答あり)。「何もすべきではない、やるとしてもそっとやるべき」という回答の主な理由は、「揉め事の原因になるから」「支援することで特別扱いになってしまう(LGBT は特別なことではない)から」「LGBT に対する誤解や嫌悪感(詳細は後述)」の3点である。

また、「(LGBT に限らず)いじめや差別に対する罰則をつくるべき」「マルチカルチュラル・グランドショーでの男女間恋愛を当然の前提としたラブロマンスは止めてほしい」「LGBT にとって働きやすい職場の紹介」「すべての学生にとって過ごしやすい環境であれば、LGBT 学生にとっても過ごしやすい環境になる」「人種を含め、個々人で受け入れたらいい問題」「個々の違いを皆が理解してこそその多様性であり、それは人生選択にとって非常に重要なことである」「ハード面のみ大学が行い、ソフト面はあくまで学生主体で企画し、それを大学がサポートする形がよい」「一部の狭い価値観を持った人たちに世界のトレンドを知ってもらうことが最も良い支援であり、APU は LGBT 学生にとって既に過ごしやすい環境である」「支援というと上から手助けするイメージがあるため、一緒に何か活動するというスタンスの方がよいのでは」といった意見も見受けられた。

一方で、「同性愛者は異常な状態にあり異性愛者へ戻す(救う)べき(2名)」「彼らに他人を不快にさせない方法を教える(1名)」「LGBT であることは自分で決めたことなのだから何もすべきではない(1名)」「楽しむためではなく勉強のために来ているのだから何もすべきではない(1名)」といった回答もあった。

6. その他、意見や日頃感じていることなど、自由に記述してください 回答数:78(29.66%)

以下、主な回答

「LGBT に関する知識を広めるためには、LGBT 当事者ではない人の協力が必要不可欠だと思う、共に協力しあい理解を深めることが必要」「いわゆるオネエなど、メディアに出る機会の多い性的マイノリティを、そのまま性的マイノリティの姿として受け取っている人も多いが、それもよくないと思う。人間の人間に対する好意は簡単に分類分けが出来るほど単純なものではない。一種の個性とさえいえると思う。人々にはその複雑さに思いをもう少し馳せてほしい」「宗教的に LGBT が許されない国で育った当事者である学生は、隠し通す大変さや辛さを感じる人もいる」「もし学内にジェンダーや LGBT に関して研究しているゼミなどがあれば、APU を研究の場として提供してはどうか、学生の立場からも提案しやすくなると思う」「ゲイ・レズビアンに比べバイセクシャルなどいわゆる『その他』のセクシャリティーの認知度があまりに低い」「アメリカほど大きなゲイパレードや LGBT イベントを APU には期待

しないが、LGBT イベントに対し、非当事者が何の疑いや偏見を持たない日がいつかやってくればいいなと思う」
「LGBT は、セクシャリティーが他者と違うだけで、それ以外は人間としてすべて同じ(平等)であり、個人の人生を邪魔すべきではない」「LGBT の人たちだけでなく、私たちは性別を選んで生まれてくることはできないし、彼らは病気になるわけでもないし、同じ人間として良い大学生活を一緒に送りたいと思います。」「LGBT 当事者として、日本での生活は生きづらいです。私はカミングアウトをしていて、親や APU の友人には自分のセクシャリティーを伝えてあります。日本人に伝えて場合と国際生に伝えた場合では反応が異なります。国際生の場合はほとんどが動じることなく受け止めてくれますが、日本人の場合は動揺されます。その原因はひとえに日本の教育にあると感じています。APU は過去に類をみない大学です。この大学から、従来の LGBT への印象を変える活動がなされることを期待します」

「授業内で『男・女』の区分に異議申し立てをした学生がいたが、賛成できる部分もあればそうでない部分もある。『男・女』の区分をなくすということは、『紅一点』『才色兼備』などといった単語を使用すべきではないのか、杵築の着物体験は『男・女』用しかないから良くないことなのか、ミス・ユニバースは開催されるべきではないのか。つまり、『言語・文化』の否定にも繋がりがかねないため、どこまでを『支援』とするのか、多文化共生キャンパスを謳う APU が、プライドをもち本腰を入れ全学的に取り組む価値のある事業と考える」「APU はベジタリアンや LGBT など、マイノリティにフレンドリーではなく、グローバルスタンダードではない」「APU の関係者が学外から招く講師の意識に疑問を持つことが多い。たとえば以前、就活のガイダンスで学外から講師の方が来たとき、自分が行きたい企業の条件を考えるというテーマで、講師が学生個人々の恋愛観や結婚観と深く結びつけた質問をし、指名して答えさせたことがあった。それを、大教室で人が大勢いる前で学生に答えさせるというのは、非常にヘテロセクシャリスティックで配慮に欠けていると感じた」

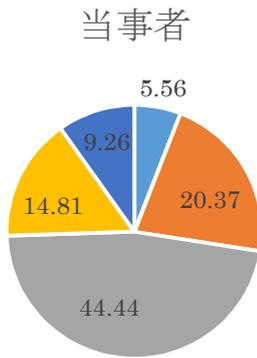
「LGBT であることを武器に自己アピールすることは違うのではないかと、それは特別な才能や何でもないから」
「LGBT に関しては 5 年前と比べると積極的に議論されるようになってきたが、それは一種のトレンドのようなもので、非当事者が楽しむために当事者として振舞う(偽る)場面を度々目にし、煩わしい」「レインボーフラッグを掲げることはあくまでアメリカの文化であり、他の文化に対して暴力的である。大学は、公平な立場でいるべきである」
「支援について全く反対である。私の宗教では同性愛は自然の摂理に反しているものであり、同性愛に対し神より天罰が下った歴史を無視し、彼らはそれを続けている」「もし、スチューデント・オフィスが『LGBT は自然なことではなく、誤った情報や誤解によるもの』というガイダンスを行えば、それは自然の摂理や幾世紀も続くヒューマニティーに即したものだ」「最低限のルールを守らない LGBT の学生を過保護にしているのは改善すべきだと思う(例えば、異性のシャワーを使ったり、同性同士で他の人が見ているところで同じシャワールームに入ったり等)」

<各回答の相関性について>

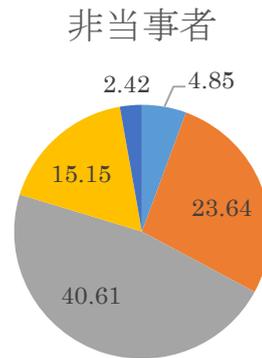
LGBT の当事者と答えた学生と非当事者と答えた学生の回答の比較を行った。

APU の環境についての質問に対しては、当事者・非当事者に拘わらず、APU 環境について「どちらでもない(44.4%/40.6%)」という回答の割合が最も大きく、次いで「すごしやすい(20.4%/23.6%)」、「すごしにくい(14.8%/15.2%)」、という回答割合順となり、各割合もそれほど差異が無い。しかし、「とてもすごしやすい(5.6%/4.9%)」と「とてもすごしにくい(9.3%/2.4%)」の回答割合の大きさが逆転しており、特に「とてもすごしにくい」という回答では、当事者・非当事者間で最も回答割合に大きな差があった(6.9%)。

「2. APU は LGBT 学生に対してどのような環境だと思いますか？」への当事者・非当事者別回答



- とても過ごしやすい
- 過ごしやすい
- どちらでもない
- 過ごしにくい
- とても過ごしにくい

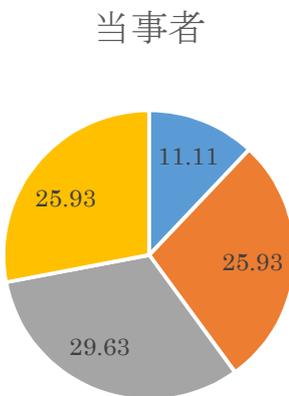


- とても過ごしやすい
- 過ごしやすい
- どちらでもない
- 過ごしにくい
- とても過ごしにくい

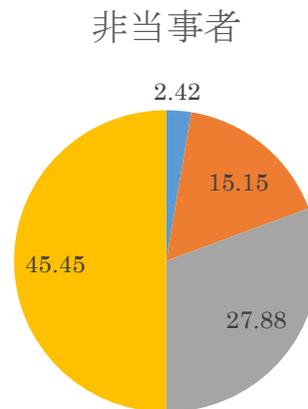
「4. APU 入学後、LGBT に関する差別的発言、からかい、いじめなどを、見たり、聞いたり、受けたりしたことがありますか？」に対し、当事者・非当事者別の回答割合は、「よくある(11.1%/2.4%)」「時々ある(25.9%/15.2%)」「あまりない(29.6%/27.9%)」「全くない(25.9%/45.5%)」割合になっている。

非当事者よりも当事者の方が、否定的言動について見聞きする頻度が高い傾向にある。

「4. APU 入学後、LGBT に関する差別的発言、からかい、いじめなどを、見たり、聞いたり、受けたりしたことがありますか？」への当事者・非当事者別回答



- よくある
- 時々ある
- あまりない
- 全くない



- よくある
- 時々ある
- あまりない
- 全くない

上記より、「当事者・非当事者に拘わらず、LGBT 学生にとって APU の環境は過ごしやすいとも過ごしにくいともいえないと半数近くの学生が思っており、残り 3 割の学生が肯定的な意見を、残り 2 割が否定的な意見を持っている。非当事者よりも当事者の方が否定的言動を見聞きする頻度が高く、当事者のうち 1 割が APU の環境についてとても過ごしにくいと感じている。」と考察できる。

<トランスジェンダーと回答した回答者について>

「3. あなた自身は LGBT の当事者だと思いますか？(はい)の方のみ。差支えがなければ、詳細を教えてください。」の項目において、自らトランスジェンダーであると回答したのは 4 名であった。参考までに以下、回答の概要を記述する。

「2. APU は LGBT 学生に対してどのような環境だと思いますか？」

とてもすごしにくい 2、すごしにくい 1、どちらもいえない 1

「2 の理由」

- 授業中の「彼」「彼女」「She」「He」といった見た目で性別を判断されるため。
- 「LGBTs」に関しての授業がほぼ無い。
- トイレや更衣室が二分化された性別のみの対象となっている。
- 性自認を無視し、戸籍やパスポートなどの性別で学生を扱い、それで部屋決めをしている。
- テストやアンケートなどで男・女の 2 つの性しか選べない。
- 性別の欄を『女性、男性、答えたくない、その他()』という様な記述式でもいいのではないか。
- APUウィークのグランドショーの劇はいつも LGBT の存在を無視した男女のロマンスばかり。

「4. APU 入学後、LGBT に関する差別的発言、からかい、いじめなどを、見たり、聞いたり、受けたりしたことがありますか？」

時々ある 4

「4 の回答の詳細」

- トランスジェンダーとカミングアウトしているにもかかわらず、さらに仮名で生きようとオープンにしているにもかかわらず、故意に本名で背後から呼ばれたりすることがある。
- 授業において教員が見た目で性別を判断する
- オフィスがアンケートなどで性別が男・女しかない
- 自分や友人がトランスジェンダーであることで、からかわれた。
- AP ハウスにいたとき、性別に関して LGBT を受け入れない宗教を信じる学生と話している時に、母国語で差別的な発言をされていると思われる経験が多々あった。

「5. 大学ができる LGBT 学生への支援はどのようなものがあると思いますか？」

- まずは学生から意見や話を聞くべきである。キャリアオフィスの就活本の男女のスーツの絵を無くすことや、「男子学生はこう」「女子学生はこう」あるべきといったような考え方は捨てて、もっと多様な性や愛の存在を意識し、先進的な取り組みをしていくべきである。
- 「だれでもトイレ」などではなく「トイレ」とだけ書かれたトイレをつくる
- 学内での公式な仮名・望む性別の使用を認める
- 教員に対し LGBT に関する教育をする。
- ワークショップやジェンダースタディーの授業で LGBT のことについて触れてほしい。
- APUウィークの伝統芸「男女の引き裂かれるロマンス」をやめて公募にしたうえで LGBT 要素(男っぽい女性、女っぽい男性、バイセクシャルなど)をいれてほしい。

「6. その他、意見や日頃感じていることなど、自由に記述してください」

- 大学の LGBT への支援が続くとは思えません。アメリカ合衆国や日本のある一部の企業では、LGBT を受け入れる制度が流行として、もてはやされていますが、大学側や学生たちが無理に LGBT について理解させるということにはあってはならないと私は思います。ただし、世間の流行に飲み込まれず、大学がじっくりと学生間やオフィスの方々の間で LGBT のことについて、受け入れるような雰囲気を持つことができると私はこの活動が持続すると考えます。
- このようなアンケートを大学がしてくれること自体で心が落ち着く。